

自治労きよと

発行所・自治労京都府本部 〒604-0867 京都市中京区丸太町通烏丸西入北側N・H・Kビル2F
TEL.075-252-5932・FAX.075-231-4918 発行人・岡本哲也 編集人・森本尚秀
定価 一部10円 本紙の購読料は組合費に含まれています。

ご意見をお寄せください

自治労京都府本部では、組合員のみならずのご意見を募集しています。組合のこと、機関紙のことなど、たくさんのご意見をお待ちしています。
TEL.075-252-5932 FAX.075-231-4918
E-mail: jichiro@jichiro-kyoto.gr.jp
http://www.jichiro-kyoto.gr.jp/

自治労第98回定期大会



▲台風のためウェブ併用で行われた

自治労は8月29日、30日の2日間、第98回定期大会を千葉ポートアリーナで開催。台風の影響でウェブ参加も可能とし、ハイブリッド形式で行われた。院勧告で月例給と一時金の増給が認められ、秋の賞与も増額された。また、新規加盟組合として京都からLADGW労組が紹介された。台風の影響で当該単組から参加できなかったため、川戸副委員長が代理で登壇。全国の仲間へ課題解決に向けた支援を訴えた。

台風の中、千葉で開催

新規加盟紹介にLADGW労組

自治労は8月29日、30日の2日間、第98回定期大会を千葉ポートアリーナで開催。台風の影響でウェブ参加も可能とし、ハイブリッド形式で行われた。院勧告で月例給と一時金の増給が認められ、秋の賞与も増額された。また、新規加盟組合として京都からLADGW労組が紹介された。台風の影響で当該単組から参加できなかったため、川戸副委員長が代理で登壇。全国の仲間へ課題解決に向けた支援を訴えた。



▲森本副委員長

核も戦争もない 平和な21世紀に

原水禁
広島・長崎
世界大会



▲ユニオンカレッジのメンバーが原水禁広島大会に参加

広島大会 酷暑の中 折鶴行進

8月4日〜6日、被爆79周年原水禁世界大会・広島大会が広島市で開催され、府本部から35歳以下の京都ユニオンカレッジのメンバーなど4単組から7名が参加した。初日は平和記念公園から大会会場の広島グリーンアリーナまで約1.5キロの「折鶴平和行進」を行った。気温36度の酷暑のなか、約2000人の参加者は「核兵器を廃絶し、平和な世界をつくらう」とシュプレヒコールをあげながら歩いた。続いて行われた開会総会では、被爆者の訴えや高校生平和大使からの「平和への誓い」のほか、海外の平和団体からのメッセージが紹介された。2日目は午前と午後それぞれ複数の分科会が開かれ、世界における核兵器の現状や日本における核をめぐる情勢、水爆実験の被害を受けた第五福竜丸にちなんだ講演などが行われた。3日目の6日には、平和記念式典終了後に、国際シンポジウム、まとめ

「平和への誓い」のほか、海外の平和団体からのメッセージが紹介された。2日目は午前と午後それぞれ複数の分科会が開かれ、世界における核兵器の現状や日本における核をめぐる情勢、水爆実験の被害を受けた第五福竜丸にちなんだ講演などが行われた。3日目の6日には、平和記念式典終了後に、国際シンポジウム、まとめ

府本部2024現業・公企統一闘争
京都府自治振興課交渉
10月17日(木) 14時00分〜 府本部会議室
府本部闘争集会
10月17日(木) 18時30分〜 京都テルサ

長崎大会 核廃絶へ訴え

原水禁世界大会・長崎大会は8月7日〜9日にかけて、長崎市で開催され、全国から970名が参加した。府本部からは京都平和フォーラムに結集

し5人が参加した。大会は原爆犠牲者への黙祷から始まり、主催者代表の川野浩一さんが5歳での被爆体験を語り、日本が核廃絶の先頭に立つべきだと訴えた。海外からも中国やマレーシアの代表者が参加し、それぞれの国の核問題への取り組みや連携の意志が語られた。また、長崎市議会議員の池田章子さんは被爆体験者訴訟に関する問題を報告し、高校生平和大使が合唱と決意表明を行った。福島の角田政志さんは、原発再稼働や処理水問題について強調し、脱原発の重要性を訴えた。最後に谷雅志事務局長が来年の被爆80周年に向けた核廃絶への取り組みを呼びかけ、全員で「原爆許すまじ」を斉唱して大会を締めくくった。



▲原水禁長崎大会の参加者

つべきだと訴えた。海外からも中国やマレーシアの代表者が参加し、それぞれの国の核問題への取り組みや連携の意志が語られた。また、長崎市議会議員の池田章子さんは被爆体験者訴訟に関する問題を報告し、高校生平和大使が合唱と決意表明を行った。福島の角田政志さんは、原発再稼働や処理水問題について強調し、脱原発の重要性を訴えた。最後に谷雅志事務局長が来年の被爆80周年に向けた核廃絶への取り組みを呼びかけ、全員で「原爆許すまじ」を斉唱して大会を締めくくった。

最終日には長崎県立アリーナで閉会総会が開かれ、1200名が参加。高校生平和大使の決意表明の後、全員で非核平和行進を行い、原爆資料館を見学して大会は終了した。

双思交

丸太町に1杯 1500円する ラーメン屋ができた。高つーと 思いつくランチ事情を調べてみた▼ホットペッパーの調査によると、平日ランチの1位はリモートワークや自営業が多いのか「自炊・家族等が作った自宅での食事」31.1%。2位「コンビニなど小売店・飲食店で購入」20.4%。3位「自分・家族等が作った弁当」19.2%。④「社食・学食」8.5%、⑤「外食」7.8%と続く▼平均予算は、社食・学食は519円、外食は1243円と増額された。物価上昇や値上げが影響しているのか全体で平均452円と過去最高額となった▼次にアサヒグループ食品が「お昼の休憩時間を調査した結果を。出社日のランチで最も重視する項目、1位は「時間がかからない」27.6%、②「コスパ」25.8%、③「おいしい」13.0%だそう。56.3%が「昼休憩が十分に取れない日がある」と答えており、理想の休憩時間63.3分に対し、現実44.3分と厳しい現実だ。賃上げと休憩時間を確保するための人員増要求を。

社福評・京都保育集会開催



手袋シアターを体験

さつした。次に、第一部として、元保育士で手袋シアター作家・絵本作家のamicoさんの手袋シアターの作成を体験。手袋シアターとは、手袋を劇場に見立てて、物語を繰り広げる遊びのこと。保育士が手袋をほめて歌ったり、物語を読んだりして子どもたちの興味を惹きつけるのが特徴。

グループごとに分かれ、はさみやグルーガンを使いながら、それぞれが個性にあふれた手袋シアターを作成した。完成

<原水禁世界大会・広島大会>ユニオンカレッジ参加者報告

平和の大切さ 尊さを広島で学ぶ



原水禁世界大会・広島大会には、ユニオンカレッジから6名が参加しました。私は、労働運動の根源は平和運動と考えています。平和でなければ働くことも生活することもままなりませんし、戦争状態になれば、何より人権侵害が公然と行われます。現在展開している労働組合の取り組みや公共サービスさえも脅かされてしまいます。そのようなことにならないためにも、若い世代が平和を学ぶことにより、それぞれが同じ世代の仲間として「平和の大切さ」を共有し、労働運動の基本として今後の取り組みに生かしてほしいと思います。府本部としても、「平和と人権」を取り組みの1つの柱として、引き続き、若い世代と共有していきたいと考えています。

(府本部書記長・増永浩子)

府本部社会福祉評議会 集会を開催。7車組19人が参加した。冒頭、寺田議長があい

グループごとに分かれ、はさみやグルーガンを使いながら、それぞれが個性にあふれた手袋シアターを作成した。完成意見交換が行われた。

特に心に残ったのは折鶴平和行進と、高校生平和大使のスピーチでした。行進では多くの人々が同じ目的で行動し、その結束力を実感しました。大会では被爆者の体験談や戦争の愚かさを学び、高校生スピーチは彼らの堂々とした姿勢に感銘を受け、次世代が平和を守る大切さを痛感しました。2日目の分科会では、世界の核軍縮や日本の核抑止政策について学び、自国の安全保障を核兵器に依存する現状に疑問を感じました。午後のフィールドワークでは、落語と講談を通じて、第五福竜丸事件や国策落語の背景にある戦争の恐ろしさを知り、娯楽が戦時中の国策に利用された事実が驚きました。3日間を通して、戦争や核兵器の愚かさを痛感すると同時に、平和の重要性を改めて考える機会となりました。今後、日常生活に感謝しながら、平和を守るために自分ができることを考え、行動していきたいと思ひます。

(自治労京都市職・中井優斗)

初日、平和公園内の原爆の子の像に千羽鶴を奉納し、その後平和行進に参加しました。元安川を眺めながら、当時の悲惨な状況を思い心を痛めました。行進後の開会総会では被爆者の体験談や高校生平和大使のスピーチを通じ、次世代へ平和の重要性を伝える責任を痛感しました。2日目の分科会では、日本が核抑止政策に依存している現状を学び、核兵器禁止条約に参加できない複雑な事情を学習しました。午後には「話芸で学ぶ平和と核」に参加し、戦時中の国策落語や第五福竜丸事件を題材にした講談を聞き、核と戦争の現実について深く考えさせられました。夜には広島平和記念資料館を訪れ、被爆者の遺品や写真を通じて戦争の悲惨さを改めて感じ、核兵器の廃絶を強く願いました。この大会を通じて、平和を願う人々の思いを共有し、平和の輪を広げることの大切さを学びました。

(京交労組・倉田陽平)

平和行進や講義の受講、平和記念資料館の見学などを通じて、核兵器の非人道性や戦争の悲惨さについて深く学びました。平和行進では厳しい暑さの中、仲間たちと広島市内を行進し、平和への願いを共有する良い機会となりました。被爆者の方の講話では、「新たな戦前を作ってはならない」という言葉が特に印象に残り、核戦争の危機が現実味を帯びている今、このメッセージが重要であると感じました。2日目は「世界の核軍縮」と「話芸で学ぶ平和と核」というプログラムに参加し、核抑止力が世界の緊張を高めている現状や、若者の非核活動参加の重要性について学びました。また、田辺一乃氏の講話と古今亭菊千代氏の落語を通じ、第五福竜丸事件や映画『ゴジラ』誕生に関する歴史を深く理解しました。核戦争のリスクが高まる現代において、被爆国として日本が果たすべき役割を考え、戦争や核兵器に対する理解を深める必要性を痛感しました。

(京交労組・安部行真)

大会の初日、折鶴平和行進で核兵器廃絶と平和を訴えました。開会総会では、被爆者の証言を聞き、戦争の恐ろしさが今も続いていることを実感しました。分科会では、ピースデポの湯浅一郎氏から東北アジアの非核化に向けた講義を受け、日本が核抑止政策から抜け出す必要性を学びました。また、ピースポートの松村真澄氏の講義で、核兵器禁止条約に向けた具体的なステップについても学びました。午後のフィールドワークでは、落語や講談を通じて、戦争と核の問題を深く考える機会を得ました。大会を通じて、核兵器廃絶への第一歩は、私たち一人ひとりが声を上げ、平和をめざして行動することだと感じました。

(府本部・河野佑)

初日の折鶴平和行進では、全国から集まった多くの参加者と共に広島市内を行進し、平和と非核を訴えました。2日目の分科会では、日本の核抑止政策や防衛費拡大について講義を受け、核兵器を所持することが抑止力になるのか疑問を感じました。また、午後には落語や講談を通じて、戦争体験が語られ、核問題を改めて考える機会を得ました。最終日には平和記念式典に参加し、多くの人々が祈りを捧げる姿に、平和を守るために学び続けることの重要性を強く感じました。大会を通じて、核廃絶の道筋が険しいものであることを認識しましたが、平和実現のためには、私たち一人ひとりが声を上げ、行動することが大切であると痛感しました。

(久御山町職・小笠原隼)

初日に行われた折鶴平和行進では、酷暑の中でも全国から集まった人々と核兵器廃絶や戦争反対を訴えました。行進後の開会総会では、被爆者の証言を通じて、戦後も続く被爆者の苦しみを学びました。2日目の分科会では、自衛隊の海外派兵や防衛費の増加に関する講義が行われ、日本の軍事政策と憲法9条の矛盾について考えさせられました。また、午後の講義や落語では、第五福竜丸や戦時中の娯楽規制を通じて、核の問題に触れ、戦争の恐ろしさを改めて考えさせられる内容でした。最終日には平和記念式典に参加し、世界中から集まった多くの人々と共に祈りを捧げ、核廃絶の難しさを感じながらも、過去の惨状を忘れずに学び続けることの重要性を強く感じました。

(久御山町職・山本裕斗)



有効期限が切れていないか、ステッカーをチェックしましょう!

右のステッカーの場合**2025年6月が期限**です。

車検制度がないため、つい忘れがちですが、原付(125cc以下)や軽二輪(125cc超250cc以下)も、自賠責共済(保険)へ加入しないまま乗ると、法律で罰せられます。あなたのバイクのナンバープレートに貼ってあるステッカーをご確認ください。

自賠責共済とあわせて**じちろうマイカー共済**もぜひ利用ください。

「こくみん共済coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地(先)の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

忘れるところだった…

不明な点があれば、まずは組合にご連絡ください

そろそろ切れるんだった!

こくみん共済(全労済) 全国労働者共済生活協同組合連合会
自治労共済 推進本部 全日本自治体労働者共済生活協同組合